

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、算数、理科ともに「知識」の力をみる問題の方が、「活用」の力をみる問題よりも平均正答率が高いです。また、3教科とも、全国と比較して標準偏差の幅が小さいことから、児童の学力の差も小さいことが分かります。
- ・国語に関して、「知識」の力をみるA問題では、全国を上回る平均正答率でしたが、「活用」の力をみるB問題では若干下回りました。A問題では、「主語述語の関係」や「同音異義の漢字」、B問題では、「意図を捉えて自分の考えをまとめる」等『話す、書く』ことへの平均正答率が低く、課題が見られます。加えて、記述式の問題に苦手傾向が見られます。
- ・算数に関して、A問題・B問題とも全国をやや下回る平均正答率でした。A問題については、円の知識に関わった「図形」領域、単位量や割合に関わった「数量関係」領域に課題が見られました。また、B問題については、「数量関係」領域において、様々な情報がある中、数学的な思考を働かせて論理的に説明することに難しさを感じる結果でした。
- ・理科に関して、平均正答率は、「知識」「活用」の力をみる問題とともに、全国を下回るものになっています。特に、実験結果を適切に分析したり、考察して記述したりするような科学的思考をはたかせることに課題が見られます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・良い傾向が認められる項目
「食事や睡眠等の基本的な生活習慣」「将来の夢や目標をもっている」「自己肯定感、有用感」「家庭での学習時間・計画づくり・内容」「学習への意欲、大切さの理解」に関する質問において、良好な回答結果を示しています。
- ・課題となる項目
「自然事象や社会事象への疑問を持つこと」「発表することへの苦手意識」「インターネット、TV、ビデオ等の視聴や画面を使ったゲームの使用時間」「読書時間」に関する質問において、課題を感じられる回答結果を示しています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・単一教科だけでなく教科横断的に、言語活動の充実を意識した授業づくりに取り組み、児童に考える力、判断する力、表現する力の育成を図ります。
- ・児童の基礎的、基本的な学力の定着を図るために、TT（チームティーチング）の有効活用をしたり、必要に応じて支援体制を組んだりしてきめ細かな指導に取り組みます。
- ・「朝の10分間おはようタイム」などを活用し、漢字練習や計算練習等を継続的に繰り返し指導します。
- ・各学年で学習規律の確立を図るとともに、学習の振り返りをおこなって学習内容の定着を図っていきます。
- ・児童が自主学習に力を入れられるよう、取り組み内容を提示するなどして、家庭と連携しながら自主学習の充実 に努めていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を活用して、児童が、進んで学ぶ習慣が確立できるように声をかけてください。
- ・学校・学年・学級だより・ホームページ等をご覧になって、学校の出来事や勉強したことなどについて親子で会話したり、一緒に過ごしたりする時間とってあげてください。
- ・就寝時刻、起床時刻、食事の時刻などの生活リズムを整え、PC等情報機器を使うルールや時間、TV、ビデオや画面を使ったゲームの使用時間を親子で話し合って決めて守らせてください。
- ・図書だよりなどを参考にして親子でいろいろな本を読んだり、お子さんの音読を聞いたりして、本の内容や感想を話し合い、読書を通して心の栄養をつけられるように励ましてあげてください。